

風しんに関する追加的対策の現状

資料 2 - 1

厚生労働省健康局

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

風しんについて

概要

- ① 症状 : 発熱、発疹、リンパ節腫脹を特徴とする。**無症状（15～30%）**～重篤な合併症併発まで幅広い。
- ② 合併症 : 血小板減少性紫斑病（1/3,000～5,000）、急性脳炎（1/4,000～6,000）、関節炎など。
妊娠中の女性が感染すると児に**先天性風しん症候群(CRS)**が出現。
- ③ 潜伏期間 : 14～21日間
- ④ 感染経路 : 飛沫感染・接触感染。感染力が強い※（**発症約1週間前～発疹出現後1週間程度感染力**がある）。
- ⑤ 治療・予防 : 対症療法のみ。予防にはワクチンが有効。

※基本再生産数（R0）：6-7（インフルエンザは1-2）
基本再生産数とは、免疫がない人々の集団で、一人の患者から平均何人に二次感染させるかを示す数字

先天性風しん症候群（CRS）とは

風しんに対して免疫の不十分な女性が、特に妊娠20週頃までに風疹ウイルスに感染した場合に出生児に引き起こされる障害。先天性心疾患、難聴、白内障が三大症状。他、低出生体重、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅滞、精神発達遅滞、小眼球など多岐にわたる。

風しん対策の概要

「風しんに関する特定感染症予防指針」（平成26年厚生労働省告示第442号、平成30年1月1日一部改正）

- 目標**：CRSの発生をなくすとともに、2020年までに風しんの排除を達成する。
- 定期予防接種の実施**：定期接種率の目標をそれぞれ95%以上とする。（令和元年度：第1期95.4%、第2期94.1）
- 抗体検査・予防接種の推奨**：普及啓発、自治体に対する抗体検査補助事業を実施。
- 自治体に対する技術支援**：風しん発生時の届出や、対応手順の手引き等を作成し、自治体に配布。
- 麻しん・風しん対策推進会議の開催**：施策の実施状況に関する評価、必要に応じた当該施策の見直し。

風しんとCRSの発生報告数の年次推移

年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
風しん(定点)	2,972	3,123	2,561	2,971	2,795	4,239	895	509	463														
風しん(全数)										294	147	87	378	2,386	14,344	319	163	126	91	2,941	2,298	100	11
CRS	0	1	1	1	1	10	2	0	0	0	2	0	1	4	32	9	0	0	0	0	4	1	1

【出典】「感染症発生動向調査」に基づき健康局結核感染症課において作成。2020年は週報速報値（暫定値）、2021年は2021年12月1日時点の暫定値。

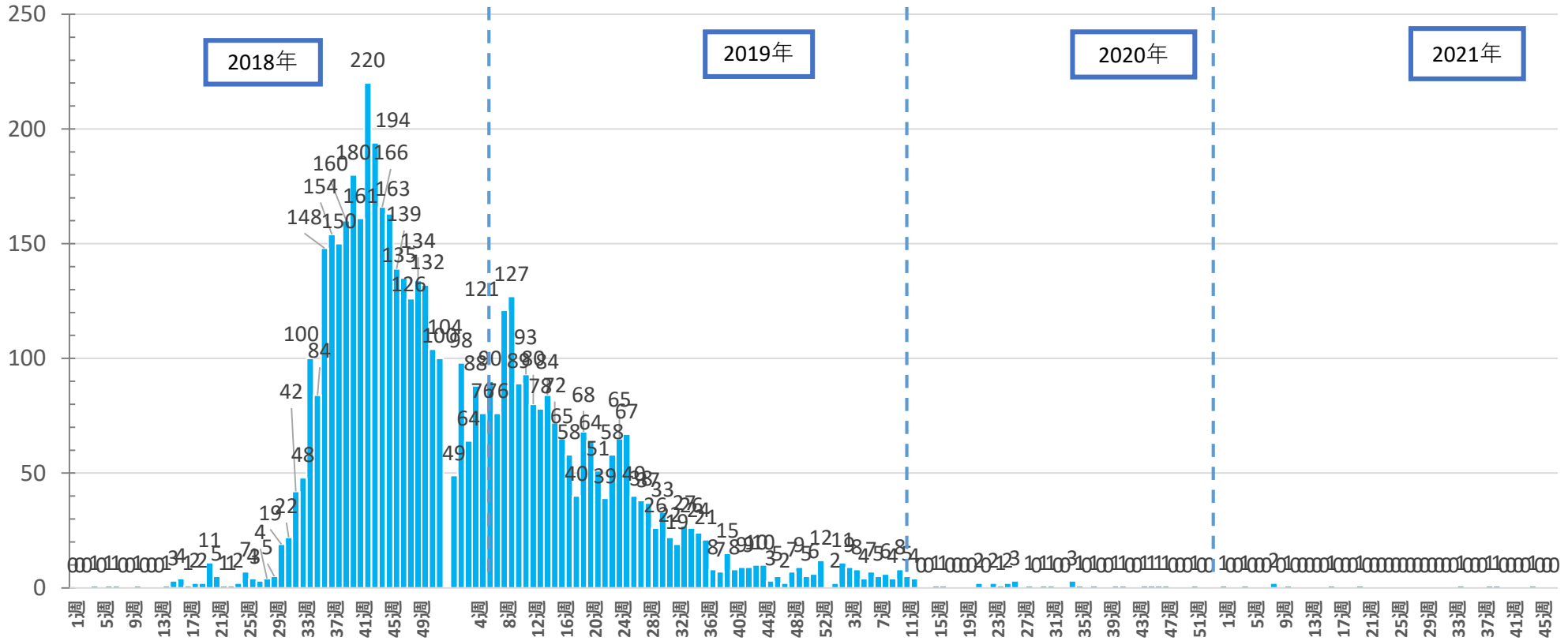
風しん報告数

2021年第1～47週、n=11(2021年12月1日現在暫定値)
(2021年1月4日～2021年11月28日)

※第47週においては、第47週分としての報告はなし。

※参考として、2018年第1週～第52週(n=2,941)、2019年第1週～第52週(n=2,298)、2020年第1週～第53週(n=100)を掲載

風しん報告数



【風しん・CRSの発生報告数の年次推移】CRSは1999年4月～開始(2006年の報告から感染地域が報告対象となった)

年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
風しん										294	147	87	378	2386	14344	319	163	126	91	2941	2298	100	11
CRS	0	1	1	1	1	10	2	0	0	0	2	0	1	4	32	9	0	0	0	0	4	1	1

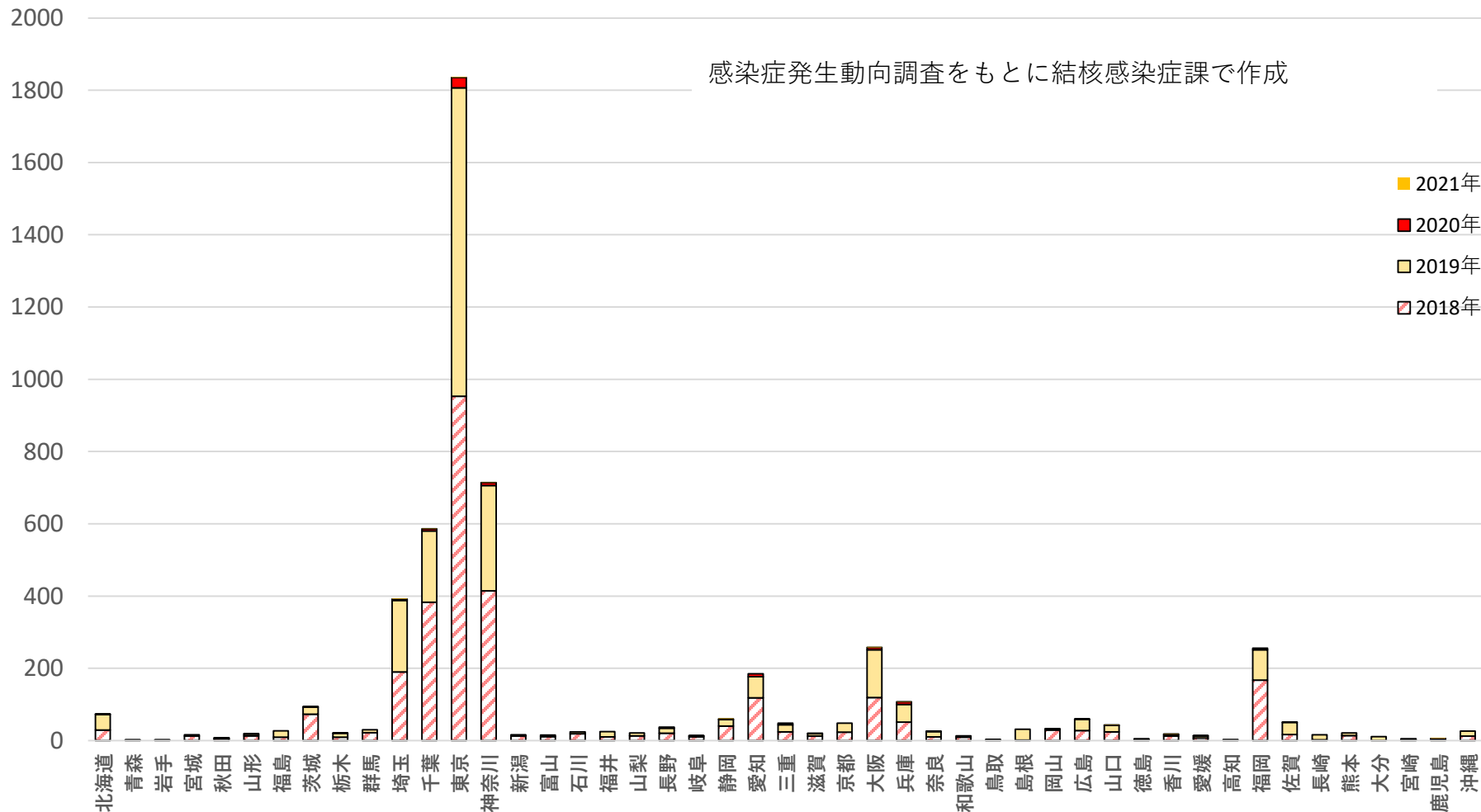
国立感染症研究所の感染症発生動向調査。2020年は週報速報値(暫定値)、2021年は2021年12月1日現在の暫定値

都道府県別風しん累積報告数

2021年第1週～第47週 (n=11) 2021年12月1日現在暫定値

※参考として、2018年第1週～第52週(n=2,941)、2019年第1週～第52週 (n=2,298)、2020年第1週～第53週 (n=100) を掲載

風しん報告数



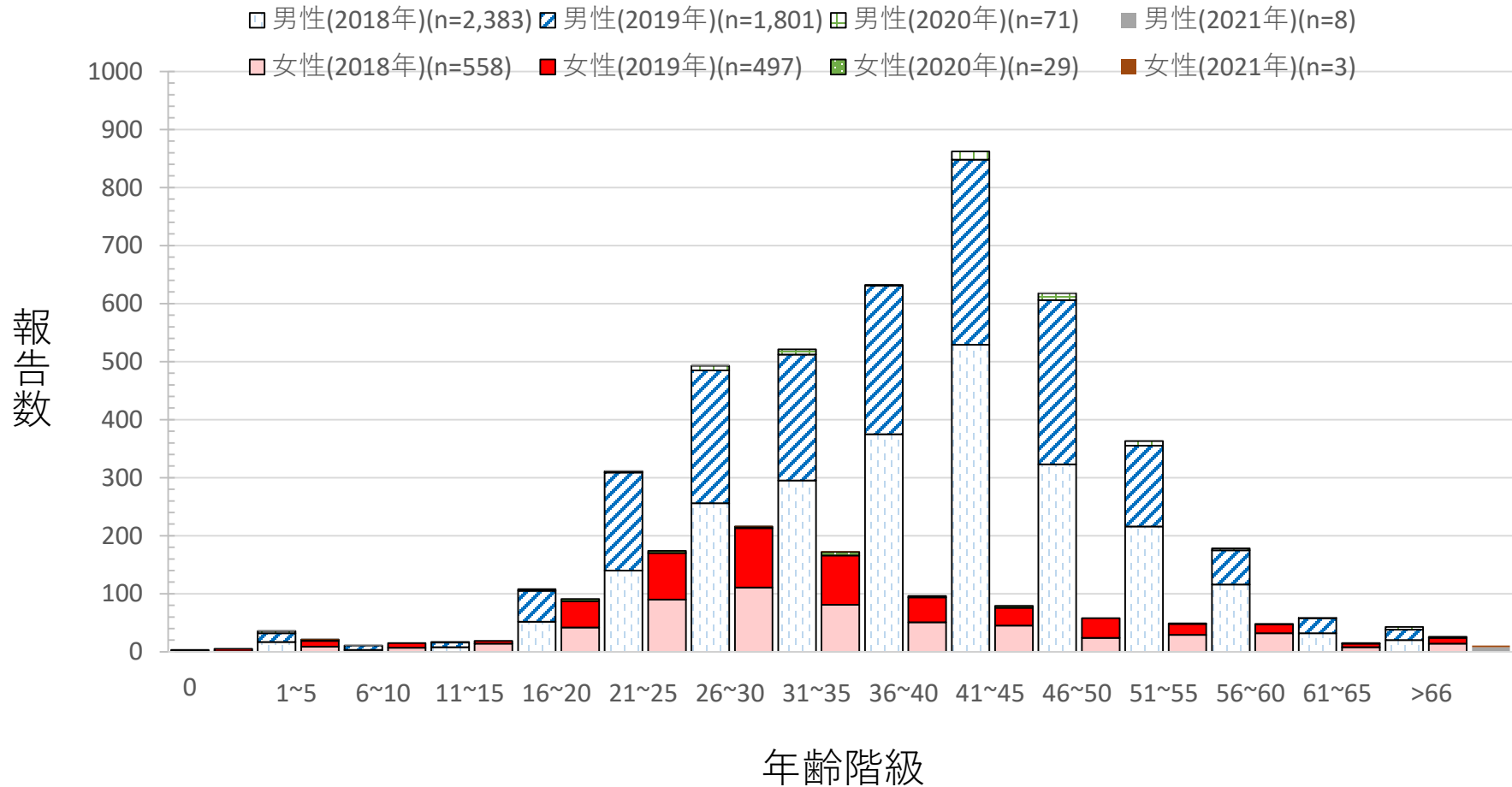
※都道府県別風しん報告数
第47週 (n=0)

風しん報告数

(性・年齢階級別)

2021年第1週～第47週 (n=7) 2021年12月1日現在暫定値

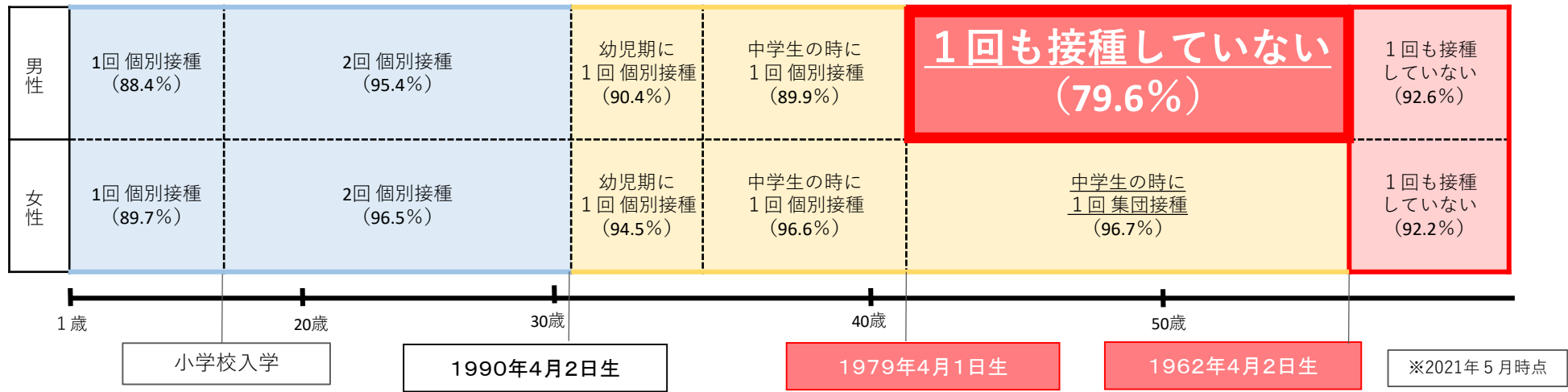
※参考として、2018年第1週～第52週(n=2,941)、2019年第1週～第52週(n=2,298) 2020年第1週～第53週(n=100)を掲載



追加的対策のポイント

特に抗体保有率が低い昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれ（令和3年度42歳から59歳）の男性に対し、

- ① 予防接種法に基づく定期接種の対象とし、令和元年度から令和3年度まで（3年間）、全国で原則無料で定期接種を実施
- ② ワクチンの効率的な活用のため、まずは抗体検査を受けていただくこととし、補正予算等により、全国で原則無料で実施
- ③ 事業所健診の機会に抗体検査を受けられるようにすることや、夜間・休日の抗体検査・予防接種の実施に向け、体制を整備

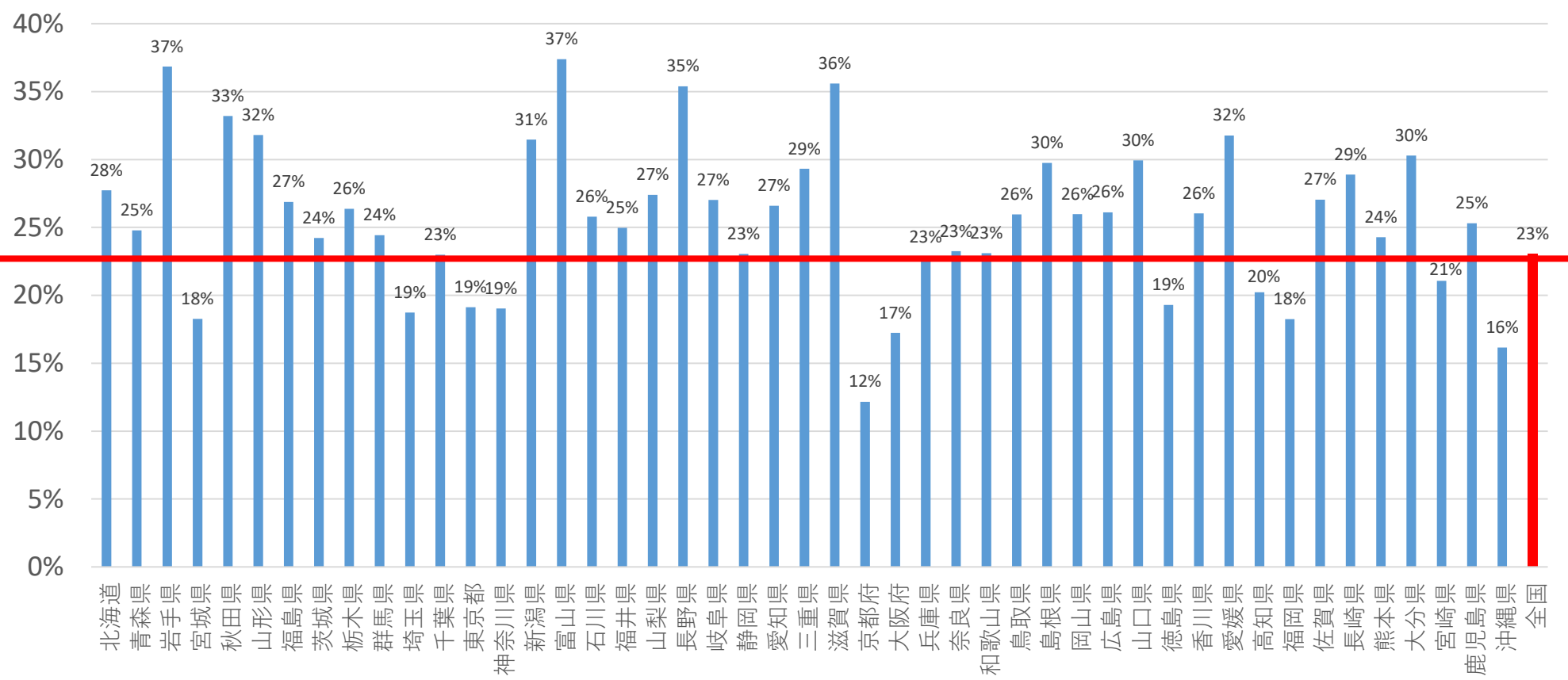


(※) () 内の数値は抗体保有率

【出典】国立感染症研究所「年齢/年齢群別の風疹抗体保有状況」2013-2017年をもとに算出（10歳以下のみ2017年のデータで計算）

抗体検査数の累積件数と実施率

- 抗体検査の実績は令和元年度は1,245,330件、令和2年度は1,764,539件、令和3年度は10月までに532,812件。令和元年6月～令和3年10月までの合計は3,542,681件となっている。
- 都道府県別では上位が富山県、岩手県、滋賀県だった。



R 1. 6月～R 3. 10月	3, 5 4 2, 6 8 1件
------------------	------------------

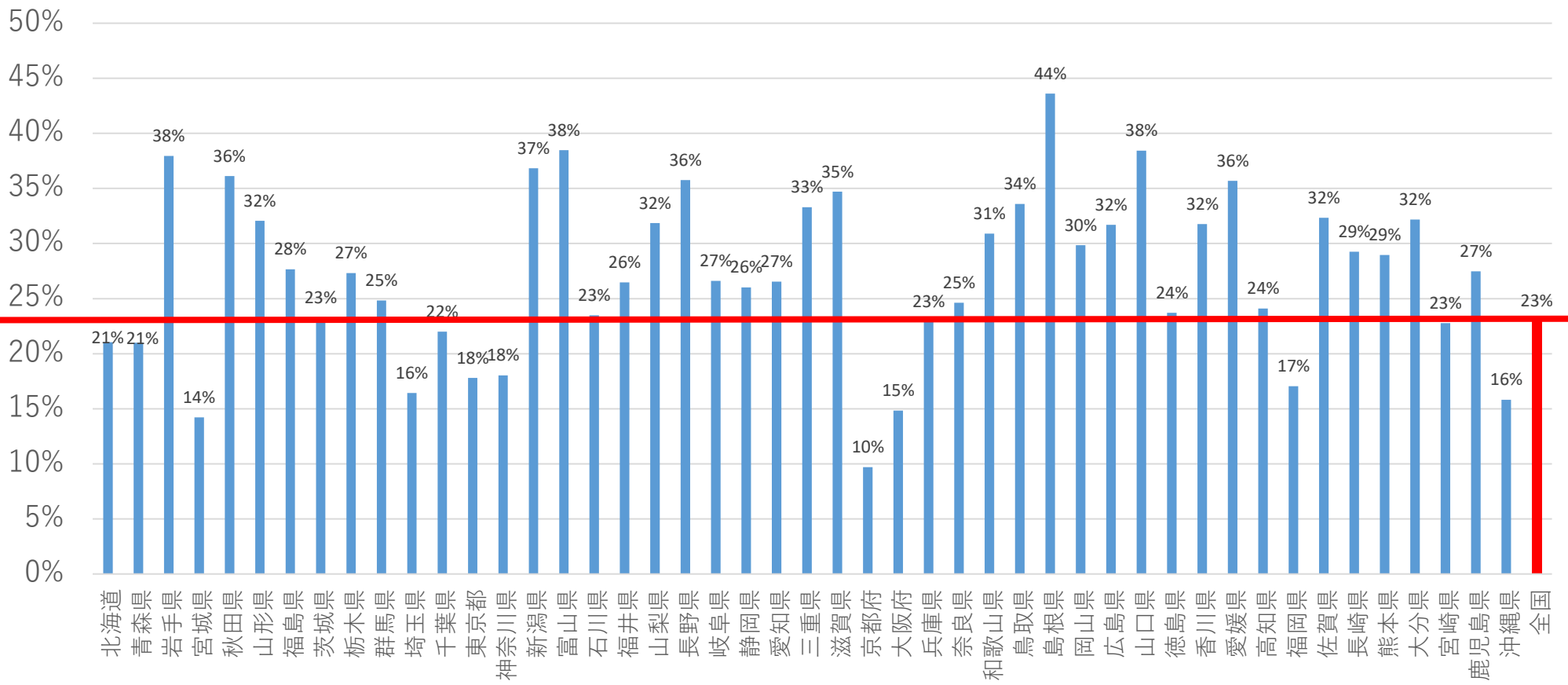
対象世代で抗体検査を受けた割合 = 抗体検査の実績数 / 対象者人口
 対象者人口 = 約1,534万人

R 3. 12月時点

出典：国保中央会の実績をもとに結核感染症課で作成

予防接種の累積件数と実施率（推計）

- 予防接種の実績は令和元年度は270,113件、令和2年度は358,513件、令和3年度は10月までに113,207件。令和元年6月～令和3年10月までの合計は741,833件となっている。
- 都道府県別では上位が島根県、岩手県、山口県、富山県だった。



R 1. 6月～R 3. 10月	741,833件
------------------	----------

R 3. 12月時点

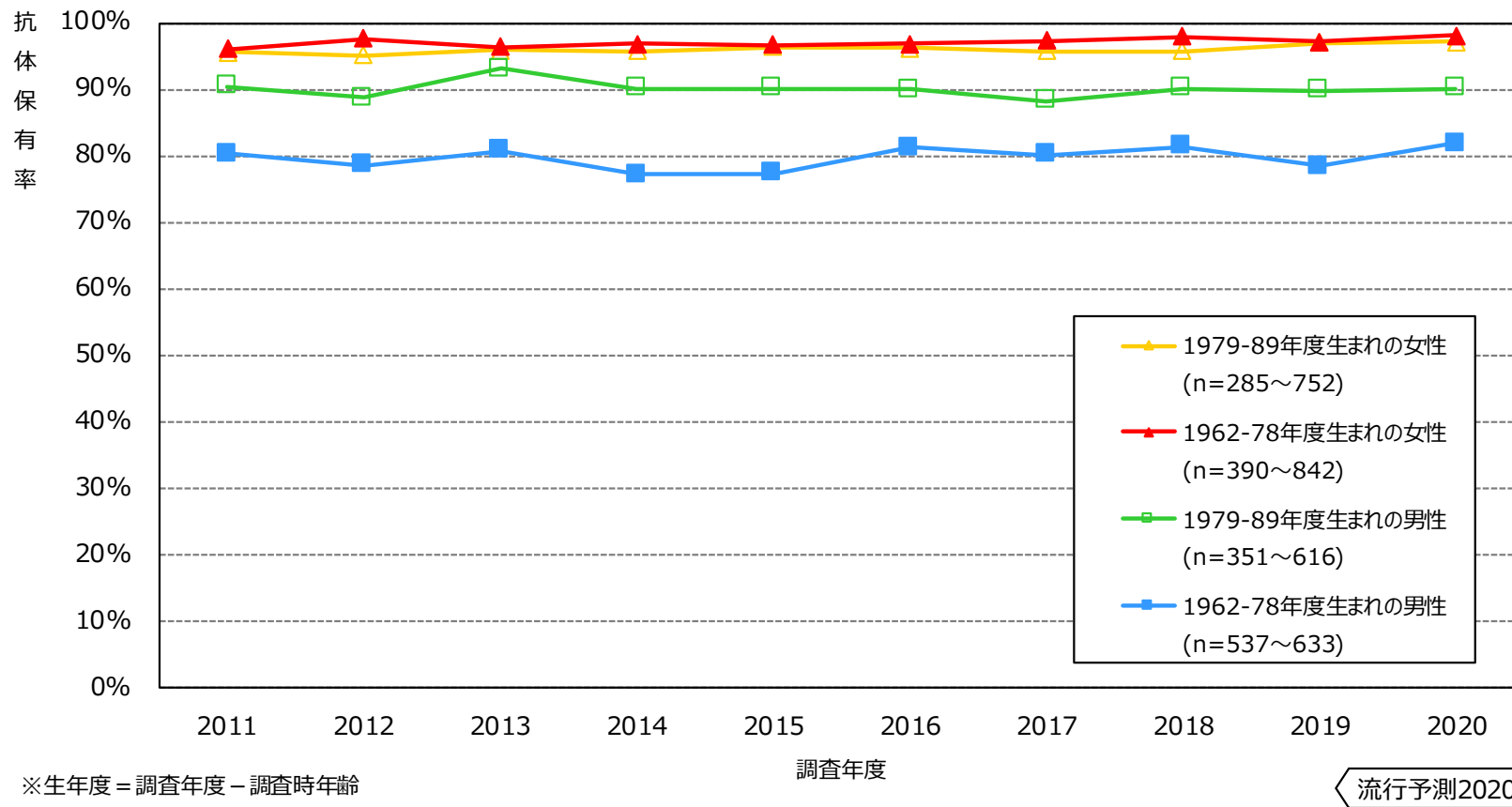
対象世代で予防接種を受けた割合 = 予防接種の実績数 / 対象者人口 × 21% ※ 1

対象者人口 = 約1,534万人

※ 1 21% = 対象世代の2017年抗体保有率から推計される陰性の割合の全国平均値

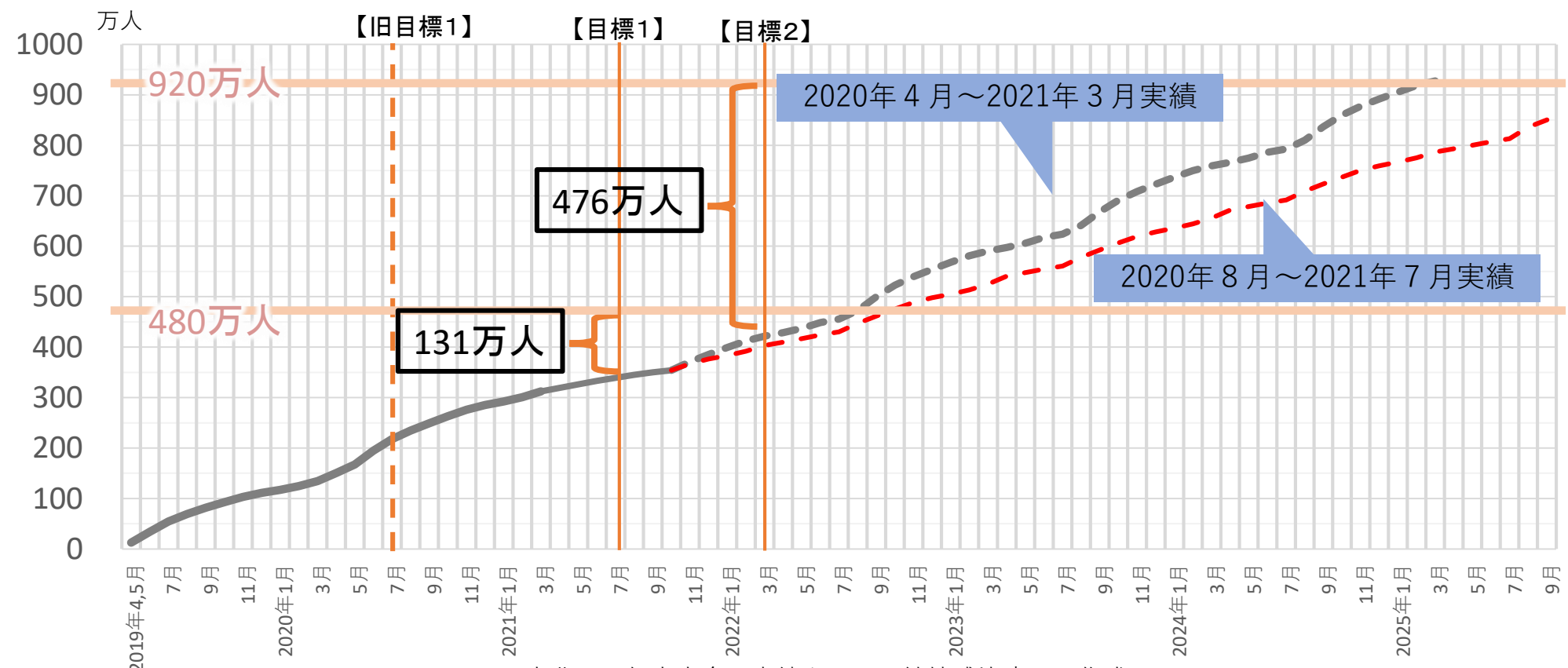
年齢・年齢群別の風しん抗体保有状況（2020年）

図3. 生年度別風疹HI抗体保有状況(抗体価1:8以上)の年度推移 – 2011～2020年度感染症流行予測調査
(2021年5月現在暫定値)



風しんの抗体検査の実施の見込み（推計）

- 目標1 (2021年7月)を達成するには131万人必要。目標2 (2022年3月)を達成するには476万人必要。
- 直近1年間 (2020年8月～2021年7月) の実績で今後の推計を行った場合、目標2 の920万人の達成は2025年9月。2020年4月～2021年3月実績では、2025年2月頃に目標2の達成すると見込まれる。
- 目標1については直近1年間の実績で、2022年年度内には達成できると見込まれる。



出典：国保中央会の実績をもとに結核感染症課で作成

1. 風しん第5期の対策の進捗について

- 今のままでは目標を達成できないので延長をお願いしたい
- 今の抗体の保有率からすると、2013年のような大きな流行が今後起こる可能性が非常に高い
- 延期は必至。現状として、3割の方が抗体検査を受けられたということですが、実際に意識が高くて、出かけて検査を受けてくださる方は、これで飽和しているのではないかと

2. 今後の対策について

① 接種前の抗体検査の必要性について

- 一回も接種していない人は抗体検査をスキップできないのか
- 抗体価が低いと分かれば、ワクチンを接種していただいている
- 抗体検査を受ける機会があるというのを保障するということは、とても重要

② 抗体検査・予防接種の対象年齢について

- 39歳から56歳のみならず、20代、30代についても対象とした接種を検討してはどうか
- 背景としてワクチンそのものの量があまり潤沢ではない為、全員でそれをやってしまうとワクチンの量が不足するのではないかと

③ 抗体検査の方法について

- 風疹の抗体測定（イムノクロマト法）で抗体を測定して、その場で陰性の人には、ワクチン接種というようなアプローチもできるのではないかと
- 風疹の抗体測定（イムノクロマト法）は、少し多めに陰性者の方を拾ってしまうことになったとしても、その方にワクチンを接種できるというのであれば、その場ですぐ分かって接種できるメリットは大きい

④ 企業健診について

○積極的に企業の健診に組み込むなどの対応が必要

○全国の健診を専門に行っている医療機関例えば予防医学協会や、全国的チェーンの検査会社に対して、風疹抗体価の検査対象者には、検査項目の中に組み込んでしまうのはどうか

⑤ 新型コロナウイルスワクチン接種について

○新型コロナワクチンの3回目接種が始まった段階で、風疹の抗体検査のための採血ができる機会を提供してはどうか

⑥ 周知・広報、関係各所への協力依頼等について

○コロナワクチンでも行われていますが、いろんなほかのキャンペーンと組み合わせてやるのはどうか

○新型コロナワクチンを受けに来てくださった方に、風疹抗体検査のチラシを配っていただくなり、そこに掲示していただくなり、あなたは風疹抗体検査の対象ですよということを、何とか伝えていただける工夫をしていただけないか

○職場で対象の方には、あなたは対象です、受けていない方は受けてくださいというような勧奨ができないか

○行動経済学的な何か方法論を使うような、いわゆるナッジみたいなもの、インセンティブをできないか

○例えばインターネット広告を打つとか、あるいはテレビ広告を打つ等の労働者への広報が必要ではないか